

面接週間を通じて、進路について少し考えるようになった人に、ヒントになりそうなことを紹介してみます。

## 文系の学部・学科領域について考えてみる

まず、文系の学部・学科について、用語の違いを軸に見ていこうと思います。

### 外国語学と外国文学について…「を」なのか「で」なのか(学ぶ)／「が」なのか「も」なのか(できる)

「英語を勉強したいから、外国語学部の英語専攻に行きたい」という話はよく聞きます。もちろん、気持ちはよ〜くわかりますが、もう少し考えを深めてみませんか?というのも、自分が①英語「スキルを」勉強したいのか、②英語「というものを」勉強したいのか、③英語「で」勉強したいのかが明確になっていない人が多いのです。そもそも①英語スキルを身につけたいだけであれば、英会話教室であったり、語学留学したり、今ならアプリや、オンライン英会話でも必要な英語力は十分身に付きます。大学に行く必要はありません。だとすると、大学で英語を勉強するとはどういうことなのでしょう?

②「英語というものを勉強する」とはどういうことでしょうか。例えば文法(例:なぜ、規則動詞と不規則動詞があるのか)とか、綴りの違い(例:どうしてアメリカでは color と綴るのに、イギリスでは colour と綴るのだろうか)について学んだり、他言語との比較(例:日本語との違い／インド=ヨーロッパ語族とは?)をしたりするのが「英語というものの勉強」です。「外国語学(言語学)」分野には、こういったものも含まれます。

③「英語で勉強する」とはそのままで、「外国文学」分野では、文学作品(最近は映画やコミックなど、対象はいっぱい)などを対象にして、作者や時代背景について学びます。外国語系学部・学科だけじゃなく、国際政治・国際関係・国際経済など、外国語「で」勉強する分野はいくらでもあります。実際には、理系の学問だって、英語「で」勉強するのは当たり前ですね。

よく、「英語ができたなら就職に有利だから」と思って「英語専攻」という人がいます。ですが考えてみてください。英語「が」できるだけならネイティブの人に勝てません。アメリカでは小学生だって英語ができる、というのは笑い話でもあり、事実でもあります。実は、英語「が」できる人というよりも、英語「も」できる人が求められるのです。大学での学びの重要性はそこにあります。「東京外国語大学」や「大阪大学外国語学部」などは、「スキル」以上の内容を勉強しているから評価されているのです。一方、外国語の専門学校みたいな大学だと、スキルは身につきますが「確かに TOEIC ではいい点数とれるけど…それで何ができるの?」となりがちです。英語で何をするのか、というのは考えたいですね。なお、「国際教養大学(秋田)」みたいなオールイングリッシュの大学になると、大学の授業すべてを英語で学ぶことになり、ちょっと別格です。

さて、英語がある程度できる自信があれば、英語以外の言語がおすすめです。大学1年生からゼロスタートなので、その言葉が身につくまでは大変ですが、英語「も」、その言語(と文化)「も」学べるのが魅力です。言葉を活かしてグローバルに活躍する道もあるし、以前同僚には、「ヒンディー語学科」卒の英語教師がいました。第二外国語が英語だったみたいです。

### 社会科と社会学と社会科学について

一度は聞いたことがあるけれど、区別がわかりにくいですね。簡単にですが、整理しましょう。

・**社会科**は、小学校・中学校で学ぶ「教科」です。ちなみに高校には「社会科」はありませんね。とはいえ、一般的には「地理歴史科」と「公民科」を合わせて社会科と呼ぶ慣習があります。この「社会科」とは学問ではなく、学校教育の「教科」なので、「社会科」の学部はないです。

・**社会学**は、大学ではじめて学ぶ「学問分野」です。「社会」を研究対象としています。学問分野としては比較的新しいものなので、「社会学部」と独立して設置されているところは少ないです。「社会はなぜこうなっているのか」を対象とする学問ですが、研究テーマがハマると抜け出せない魅力があります。

・**社会科学**は「学問領域」です。具体的な内容は、以下の人文科学との比較で説明します。「社会学部」という学部がほとんどないのは、領域に含まれる「法学」や「経済学」などがもともと独立した学部として成り立っていることが多いからです。

以上がわかると、例えば「社会科の教員になりたいから社会学を勉強する」というのはちょっとポイントが違うし、「(社会科の)歴史が苦手だったから、社会科学系の学問は向いていない」というのも短絡的だということはわかりますね。

## 人文科学と社会科学

いわゆる文系の二大「学問領域」です。大雑把な区分としては以下の通り。

・**人文科学**: 文学・語学・歴史学・地理学・哲学・宗教学・心理学

・**社会科学**: 法学・政治学・経済学・経営学・社会学

※これらはあくまでも大雑把な区分です。

明確な線引きは難しいのですが、「**人文科学**」は、**個人・個性・独自性**をターゲットとしており、「**社会科学**」は**社会・法則性・普遍性**をターゲットとしていると言えます。社会科学は社会現象の法則性を扱うので、データの分析が必要なことが多いです。例えば、需要と供給の法則といった経済理論や、政党支持率が選挙結果に与える影響といったものなどです。分析力を求めるため、入試でも「**地歴・公民**」のかわりに「**数学**」が選択できる大学が、人文科学系よりも多い印象があります。

とはいえ、境界線はあいまいです。例えば**歴史学**で「ある人物がどのような人であったのか」というテーマだと**人文系**、「その出来事が社会にどのような影響を与えたのか」となると**社会科学系**のテーマになります。また、**経営学**でも、企業間の競争について扱えば**社会科学系**ですが、企業のトップがどのような経営方針・経営哲学を持っているか、というテーマであれば**人文系**と言えます。また、**地理学**や**心理学**などは、もはや理系とされることもあります。例えば**東京都立大学都市環境学部地理環境学科**は、「**地理学**」を学べる大学ですが、**入試科目は理系**です。また、**東京海洋大学海洋生命科学部海洋政策学科**も、内容的には人文地理的な学科だと思うのですが、**2次試験には地歴科目はありません**(数学を使えば文系からも行けます)。

それから、「**社会学**」「**政治学**」あたりが、「**経済学部**」「**法学部**」ではなく、「**人文学部**」などに組み込まれている大学もあります(静岡大学など)。単に学部名だけでなく、専攻内容まで目配りすると大学選びも深まりますね。

## 理系の学部・学科領域について考えてみる

今回は文系がメインになってしまいましたが、理系についてもちょっとだけ触れてみましょう。

### 理学部と工学部について

初歩の初歩ですが、**理学部**は「**仕組み**」を学ぶ、**工学部**は「**仕組み**」の使い方を学ぶと考えるのが基本です。工学部は人間が使うものを扱う学問なので、理系の中の文系だという話をする人もいます。確かにそういう面はあります。近年、工学部を中心に、「女子枠」を設けている大学が多い理由の一つに、「女性が使うもの」を作るための人材としての女性が求められている、という側面もあります。もちろん「女子枠」については他の理由もありますが、それについては別の機会に紹介します。

### 理学部化学科と工学部応用化学科

理学部と工学部の違いの例として、これらの学科の違いを見てみましょう。同じ化学系ですが、**理学部化学科**は理論・基礎研究が主、**工学部応用化学科**は、**実用・技術応用**が主になります。わかりやすく言うと、化学科はゴムを研究し、応用化学科はタイヤを作る、という感じででしょうか。

これは就職のイメージにもつながります。**化学科**は**研究職**、**応用化学科**は**メーカー、開発職**がメインになります。もちろん、化学科でメーカーに就職したり、応用化学科で研究職になることも十分ありえます。**化学科**だと**製薬会社**や**化粧品**の研究職、**応用化学科**だと**建設系**なんかもありそうです。

## 理系からみる食品関係へのアプローチ

食品関係に関わりたい、という相談もよくあります。今回は基本的な考え方だけ整理してみましょう。

まず、「**食べるもの**」としての食品について学びたいのであれば、まずは**農学部**が王道です。農学部というと土いじりのイメージがあるかもしれませんが、農業だけでなく、食品加工や発酵、パッケージングやマーケティングなども農学部のフィールドになっています。どういう食品を生産するのか、が農学系です。**山梨大学生命環境学部**などもここに入るでしょう。

これに対して、食品を「**食べる側**」から見るのが、**管理栄養士**をはじめとした、**食品系・家政系**の学びになります。食物がどう消化され、吸収されるのか、ということに焦点をおいているのがここになります。**静岡県立大学食品栄養科学部**がその代表。

さらに詳しく食品の成分や、分子レベルの分析になってくると、**化学系・薬学系**の学びになってきます。

また、食品というより、料理に焦点をあてると、どんな料理がおいしそうに見えるのか、どのような環境(レストラン・ホテルなど)で料理を提供するとよいか、という研究だってあります。そうなってくると、こんどは**文系・特に人文系**のテーマになります。

このように食品関係ひとつとっても、アプローチの仕方によって、どこでどのような学びをするかは違ってきます。進路を考えるのは大変ですが、自分の興味の軸がどこにあるのかを一度考えてみるとよいと思います。